

8 循環器病分野(案)(H.23.5.26版)

〈指標の達成状況〉

改善した	目標値に達した		
	目標値に達していない		
変わらない			
悪くなっている			

※各指標の達成状況については、別添シート参照

〈総括評価〉

- カリウム摂取、高血圧の改善においてほぼ変化がなかった。
 - 健康診断を受ける人は、目標値に達しないものの、増加傾向にある。
 - 循環器病の減少については、死亡数・死亡率の観点からは、脳卒中は改善がみられるが、虚血性心疾患については、悪くなっており、全体としては変化はないものと評価。
- 性・年代別の検討、何歳までの死亡率などの考え方も必要ではないか。

〈指標に関連した施策〉

- 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
- 医療計画(4疾病5事業)
- 食事バランスガイド
- エクササイズガイド
- 特定健診・特定保健指導

健康日本21の目標値に対する直近値に係るデータ評価シート(案) (H.23.5.26版)

循環器病 分野

記載留意事項・・・各項目の冒頭には、見出しとして分析結果、課題等を要約として記載してください。
詳細なデータ解析をした場合は、解析結果や二次資料を添付してください。

分野:循環器			
目標項目:8.2 カリウム摂取の増加(1日当たりの平均摂取量)			
目標値	策定時のベースライン値 (H9国民栄養調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値 (H21年国民健康・栄養調査)
成人 3.5g以上/日	2.5g	2.4g	2.4g
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
	○ベースラインと比較すると軽度低下しているようにも見えるものの、概ね変化無し。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	□性、年代、地域別の特性に差があるのか。		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○ベースラインから概ね横ばいといえる(変わらない)。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	□カリウムの元の食品ベースでの検討結果もあわせて解釈をすべき。		

分野:循環器			
項目:8.5 高血圧の改善(推計)			
目標値	策定時のベースライン値 (H10年国民栄養調査)	中間評価 (H16年国民健康・栄養調査)	直近実績値 (H21年国民健康・栄養調査)
(推計値)平均最大血圧 男性(15歳～)	132.7mmHg	131.5mmHg	131.7mmHg
(推計値)平均最大血圧 女性(15歳～)	126.2mmHg	125.0mmHg(妊産婦除外)	123.3mmHg
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	<p style="text-align: center;">経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析</p> <p>○中間評価と比べると横ばいだが、ベースライン値と比較すると軽度の低下が認められる。</p>		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	<p>□年齢調整の必要はあるか(3つの調査時の平均年齢の比較)。</p>		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	<p>○策定時に比して数値としては、軽度低下しているが、ほぼ横ばい(変わらない)</p>		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載	<p>□高血圧薬服用者数・率もあわせて評価する必要があるのではないか。(薬剤服用中の場合には血圧が低値でも脳卒中リスクは高いというデータもあるため)。愛知県データでは60歳代で30%、70歳代で40%以上が降圧薬服用中である。</p>		
(5)その他コメント	<p>□特定健診のデータ活用可能ではないか。性・年代別の判定区分や平均値を算出できる。未治療者での区分と治療中の者での区分も参考となる。</p> <p>□中間評価で使われているのが「降圧剤服用者を除いた対象」の平均値になっている。平成21年もそうか。平成10年の数字は全体の平均値である。降圧剤服用者を除いた平均値を使うのは国民の代表値として不適切と考えるがどうか。</p> <p>□対象者全体の平均値(妊婦は除いて良い)を使うと平均血圧値は上昇傾向であるが、これは国民健康・栄養調査の参加者の平均年齢の上昇が入っていると思う。年齢の影響を除いたものを使うべき(年齢調整)。少なくとも年齢階級別の平均値を比較するのがよいのではないか。</p> <p>□そのほか可能なのは「高血圧有病率(高血圧者の割合)」として血圧140/90以上または服薬中のものの割合を使ってはどうか。この場合も年齢階級別。</p>		

分野:循環器			
目標項目:8.7 高脂血症の減少(高脂血症の人の割合)			
目標値	策定時のベースライン値 (H9国民栄養調査)	中間評価 (H16国民健康・栄養調査)	直近実績値 (H21国民健康・栄養調査)
男性(高脂血症者 ※内服者も含む) 5.2%以下	10.5%	12.1%	10.4%
女性(高脂血症 ※内服者も含む) 8.7%以下	17.4%	17.8%	16.0%
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析 ○男性においては横ばいで、女性においては若干であるが改善している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	□性・年代別の検討も必要ではないか。女性では60歳以上で急に薬剤服用中の人が増加する(25%が内服)ことが特定健診データでは明らかである。		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○男女とも増減しており、値の変化はわずかではあるが、全体として策定時に比して改善した。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	□特定健診のデータ活用可能ではないか。性・年代別の判定区分や平均値を算出できる。 □出典の数字がどこにあるか見つからない。総コレステロール240以上とのことだが、220以上でなくていいか(LDLコレステロール140に相当)。また、こちらも基本的には年齢の影響を受けるので、年齢階級別の推移を見るべき。		

分野:循環器			
目標項目:8.10 健康診断を受ける人の増加(健診受診者の数)			
目標値	策定時のベースライン値 (H9年健康福祉関連サービス需要実態調査)	中間評価 (H16国民生活基礎調査)	直近実績値 (H19年国民生活基礎調査)
6860万人以上(全国数)	4573万人	5850万人	6013万人
コメント			
(1)直近値に係るデータ分析 ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析	経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析		
	○ベースラインと比較し、顕著に増加している。		
(2)データ等分析上の課題 ・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。	○ベースライン、中間値、直近値でそれぞれ調査の出典が異なる。		
(3)最終評価 ・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。	○改善した。		
(4)今後の課題及び対策の抽出 ・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載			
(5)その他コメント	□国民生活基礎調査の人数は推計値か。 人間ドック受診・職域健診を含む受診者なのか？		

分野:循環器

目標項目:8.11 生活習慣の改善等による循環器病の減少(推計)

目標値	策定時のベースライン値 (H10年人口動態統計)	中間評価 (H16年人口動態統計)	直近の実績値 (H21年人口動態統計)
脳卒中死亡率(人口10万対) 全体	110.0	102.3	97.2
脳卒中死亡率(人口10万対) 男性	106.9	99.9	96.7
脳卒中死亡率(人口10万対) 女性	113.1	104.5	97.8
脳卒中死亡数 全体	13万7819人	12万9055人	12万2350人
脳卒中死亡数 男性	6万5529人	6万1547人	5万9293人
脳卒中死亡数 女性	7万2290人	6万7508人	6万3057人
虚血性心疾患死亡率(人口10万対) 全体	57.2	56.5	59.9
虚血性心疾患死亡率(人口10万対) 男性	62.9	63.4	68.2
虚血性心疾患死亡率(人口10万対) 女性	51.8	50.0	52.2
虚血性心疾患死亡数 全体	7万1678人	7万1285人	7万5481人
虚血性心疾患死亡数 男性	3万8566人	3万9014人	4万1795人
虚血性心疾患死亡数 女性	3万3112人	3万2271人	3万3686人

コメント

経年変化を踏まえたベースライン値と現状の分析、特徴(性、年齢、項目別の分類など)を踏まえた分析

(1)直近値に係るデータ分析
・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析

○脳卒中死亡は減少(改善)傾向であり、虚血性心疾患死亡では増加(悪化)傾向。
○男性・女性とも同じ傾向

(2)データ等分析上の課題
・調査・分析をする上での課題(調査手段、方法、分析材料等)がある場合、記載。

○死亡のみであり、発症に関するデータはない。
□脳卒中死亡率は男性のほうが低いが、発症・死亡年齢は男性のほうが若いことに注意すべきでないか。

(3)最終評価
・最終値が目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載。

○脳卒中は改善。心筋梗塞は悪化。循環器分野としては、変わらないと評価。

(4)今後の課題及び対策の抽出
・最終評価を踏まえ、今後強化・改善等すべきポイントを簡潔に記載

□要介護者(脳卒中を原因とする)を指標に加えるべきでないか。

(5)その他コメント

□男女の比較において、循環器疾患発症・死亡年齢のピークが10歳程度違うことに留意すべきでないか。
□使っている死亡率は「粗死亡率」だと思う。基本的に、人口の高齢化の影響を除外して死亡率の推移を評価すべきだと思うので、「年齢調整死亡率」を用いるべきではないか。
□死亡数は人口の高齢化の影響を受けるので、評価においては参考程度にとどめるべきではないか。

